

2024年10月19日発行
日本比較文化学会関東支部

2024年度第1号のレター発行となります。本号では、2024年10月12日(土)に東京未来大学にて開催されました「第62回関東支部例会」での支部会員の発表要旨について掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 長田 元

◆第62回 関東支部例会 ご報告◆

2024年10月12日(土)、東京未来大学において第62回関東支部例会が開催されました。当日は10名の支部会員による研究発表が行われました。各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な合同例会となりました。以下、例会での会員の研究発表の要旨を掲載致します。

◆開会の挨拶: 関東支部 副支部長 郭 潔蓉 (東京未来大学)

◆研究発表:

割り込み発話の機能とその話題推移への影響 —母語場面と接触場面との比較—

宇都宮大学大学院博士後期課程
張 筱婷

本研究は、日常会話の途中で発話を中断させたり、重ねて発話したりする、いわゆる割り込み発話に焦点を当てる。日本語母語話者同士の場合(母語場面)と日本語母語話者と学習者の場合(接触場面)を比較して、1) それぞれの割り込み発話の特徴を明らかにすること、そして、2) 割り込み発話が話題展開にどう関連するかを見極めること、この2つを目的とする。

接触場面の割り込み発話は母語場面に比べ、会話を妨害することが多い(木暮2002)。そこから、学習者の割り込み発話には妨害を生じる特有の要素があると考えられる。『BTSJ1000 人日本語自然会話コーパス』から友人関係2人間のデータを選定し、分析を行い、この特有の要素は何かを特定する。まず、母語場面と接触場面それぞれの会話データから割り込み発話を抽出し、頻度を算出する。また、その発話機能を明確化する。

次に、使用実態を詳細に検討し、相違点と共通点を見出し、母語話者同士ならではの特徴や、母語話者が学習者を気遣う発話をするなど、学習者が参加した場合の特徴を指摘する。最後に、発話の機能の相違が、割り込み発話と話題推移(話題の導入・展開・転換)との関係にどう影響するか、実例を示して検討する。

そして、研究成果から、実際の割り込み発話の中で、日本語学習者が意識的に使用すればコミュニケーションの質を向上させられるストラテジーを提案したい。

日本における中国人親の言語意識と実践 —言語教育方針の視点から—

早稲田大学大学院博士後期課程
盤 大琳

本研究は、日本に在住する中国にルーツを持つ子どもたちの言語環境に注目し、その親たちの言語教育方針を明らかにすることを目的としている。

研究方法として、28人の中国人親に半構造化インタビューを実施し、彼らの言語教育意識と実践について調査した。その結果、日本在住の中国人親は、日本語、中国語、英語という三言語環境を考慮しつつ、特に中国語の維持に重点を置いた言語教育を行っていることが明らかになった。

多くの中国人親は、子どもの日本語が第一言語になることを自然な流れとして受け入れており、言語シフトに対する不安は比較的少ないことがわかった。英語教育については、大学受験や将来の就職を見据えて重視する家庭が少なくないが、小学生の段階では高度な能力を求めるといよりも、英語に触れる機会を提供することに重点が置かれている。

一方で、中国語習得への期待は高く、特に会話能力（聞く・話す）が重視されている。この期待に応えるため、家庭内での中国語使用、中国語の絵本やアニメの活用、中国語教室への通学、中国への一時帰国など、様々な取り組みが行われている。しかし、親の期待が高い反面、中学受験により時間的制約、子どもの日本語能力が中国語能力を上回ることによる家庭内での中国語会話の維持困難、子どもの中国語学習への拒否反応など、中国語教育に関する様々な課題に直面している。その結果、家庭内での言語使用パターンとして、親が中国語で話し、子どもが日本語で返答することが多かった。その結果、家庭内での言語使用パターンとして、親が中国語で話しかけ、子どもが日本語で返答するというケースが多く見られた。親たちは自身の方針を一方向的に押し付けるのではなく、子どもの個性や発達段階を考慮しながら言語教育方針を柔軟に調整しており、このことは子どもと親の相互作用を示唆している。

群れを表す英語表現の認知度と汎用性

新島学園短期大学
前田 浩

英語では群れを表す表現が日本語と比較すると多く存在する。例えば、『新和英大辞典』の「群れ」の項目には31の表現が記載されている。同辞書に掲載されている表現を、不定冠詞を取り除き、アルファベット順に整理すると、bevy, cloud, clump, cluster, covey, crowd, drove, flight, flock, gaggle, gam, group, herd, horde, knot, multitude, pack, pride, pod, raft, rookery, run, school, shoal, siege, skein, string, swarm, throng, troop, wisp のようになる。本研究発表では、英語母語話者にインフォーマント調査を実施し、その結果に基づき、まず、群れを表すこれら31の表現が普通に用いられる表現か、すなわち、表現の認知度を明らかにする。次に、群れを表す英語表現と典型的に共起する表現を中心に辞書の記述から抽出した約50種類の動物を表す表現を取り上げ、例えば、a school of fish という表現のように、群れを表す表現と動物を表す表現のどの組合せが可能で、どの組合せが不可能なのか、すなわち、群れを表す表現の汎用性を明らかにする。

中国人日本語学習者向けの文化適応型教授法に関する研究

宇都宮大学大学院博士後期課程

DUAN YUNYI

経済のグローバル化、ユニバーサル化の進行に伴い、人、もの、金、情報の流れが「国家」という境界を越え、国々および人々の一層の接近をもたらしている。このグローバル化現象の1つとして、日本語学習者も年々増加してきている。2021年現在、世界の日本語教育機関数は18,272ヶ所があり、日本語教師数は74,592人、日本語学習者数が3,794,714万人に達した。しかし、学習者数が増える一方、各国の日本語教育には多くの課題が出てくる。中国を例とすれば、日本語能力試験や進学試験を目指した文法や語彙、読解が中心で、日本語運用力に関する教育が欠けると言われている。中国の日本語学習者数は世界の日本語学習者の約3分の1を占めていて、課題がより多くなると考えられている。本研究では、中国における中国語母語話者を対象に行う日本語教育、とくに、教授法に関わる問題を分析し、中国人日本語学習者向けの文化適応型日本語教授法の開発と提案を目的とする。中国母語話者への日本語教育は、日本文化、日本的思考方法に出会うきっかけとなり、より広い視野に立って物事が見られる人間の育成につながることも期待される。また、中国人日本語学習者によりふさわしく、書く、聞く、読むや話すについてより全面的に把握できる教授法に焦点を当てる。

初対面会話における発話の重なり後の発話権交替 —日本語母語場面と中国語母語場面の比較—

日本女子大学大学院博士後期課程

周 浩

本発表では、自由会話における発話の重なり後、前話者による発話権維持、後話者による発話権奪取、あるいは2人以上の話者の同時発話による発話権競合がどのように生じるかを分析した。分析の対象は、初対面の日本語母語話者同士および中国語母語話者同士による会話である。分析の結果、まず、どちらの母語場面においても、発話の重なり後に発話権が交替する頻度は、発話権維持、発話権奪取、発話権競合という順で多く観察された。この結果は、初対面の自由会話において発話の重なりがあっても、前話者が自分の意見を最後まで述べようとする意識が強いことを示唆する。また、中国語母語場面では2人の話者の同時発話による発話権競合が数回見られたが、日本語母語場面では一回しか見られなかった。これは、中国語母語場面では、初対面でも2人以上の話者の意見が異なる場合、初対面でも特に意見交換や議論の場面で、日本語母語話者に比べて、中国語母語話者の方が発話権を譲らず、その場で率直に意見を述べ続けることが許容されると考えられる。さらに、今回の調査では、中国語母語場面における発話の重なりが日本語母語場面より少ないことが分かった。従来、中国語母語場面では発話権をめぐる競争が多く、発話の重なりが頻繁に見られるとされていたが、今回の調査結果は逆の傾向を示している。フォローアップインタビューの情報から、発話の重なり頻度は会話参加者の話題への関心度の高さに比例して変わる可能性が示唆された。

調査研究資料から読み解くセネガルの医療

日本比較文化学会関東支部会員（創価大学名誉教授）

鈴木 宣行

セネガルの医療環境は極めて厳しい状況（2024年度社会保健活動省の予算（≒639億1,100万円）の下で、国民の約80%がインフォーマルな経済活動（政府に把握されない経済活動）に従事している現状を考えると、セネガル政府の目指す「国民皆保険」は困難と言わざるを得ない。雨季には消化器感染症（腸炎、赤痢、サルモネラなどが原因の消化器感染症）が増加し、乾季にはサハラからの熱風ハルマタンによる大気汚染の結果、塵による呼吸器系障害や結膜炎が増加。また、乾季には細菌性髄膜炎が流行する。上道整備が不十分なための飲料水問題（飲料水はミネラルウォーター）と下水道整備が不十分なための雨季の道路冠水による泥水問題も公衆衛生上の大きな課題である。

また、セネガルに求められているのは、医療アクセス改善であり、医療機関から遠隔地の農漁村部の貧困地域での良い医療環境下における日常生活の営みである。そのためには：

- 1) 技術的課題として、保健センターと保健ポストの施設拡充と同施設を中心とした基礎医療分野における看護師などの人材育成・拡充

※社会保健活動大臣は「プライマリ・ヘルスケアの分野における保健所や保健センターなどの保健施設のニーズを適切に管理することによっても行われる」と述べている（Le Quotidien 2024.7.18）

- 2) 法的課題として、DX(デジタルトランスフォーメーション)によるデータに対する適切なアクセス管理のための法整備構築

を遅滞なく進めるために、セネガル政府が「人権・健康意識向上と人間生活改善」に向けての意識改革をし、同政府が策定した「国家保健社会開発計画2019-2028」を確実に実行し、国民に向けての「エイズ撲滅キャンペーン」が成功したように、徹底したキャンペーンを実施し、その改善に向けた政府の姿勢を目に見える形で示していかなければならない。また、独立した近代国家としての正確な「統計」体制の確立が求められる。殊に、上記2)を進めるためには、実施する諸事業が長期間在職する責任者による「腐敗の温床」とならないよう、事業計画運営組織のチェック体制を確立させなければならない。

日米中メディアの視点から探る朝露首脳会談の報道

淑徳大学人文学部表現学科

田中 則広

ロシアはウクライナ侵攻後、北朝鮮＝朝鮮民主主義人民共和国との「絆」を急速に深め、兵器不足を補うために北朝鮮から砲弾を調達するなど、軍事協力を強化している。北朝鮮もロシアからの軍事技術支援を求め、相互の利益に基づいて関係が深化している。このような背景の中、2024年6月、北朝鮮の首都ピョンヤンでロシアのウラジーミル・プーチン大統領と北朝鮮のキム・ジョンウン（金正恩）総書記が首脳会談を行い、「包括的戦略パートナーシップ条約」に署名した。この条約では、武力侵攻があった場合に相互に軍事支援を行うことが規定されている。本発表では、朝露の軍事協力の深まりを背景に、日米中のメディアがこの首脳会談と新たに締結された条約をどのように報じたかを、それぞれの国を代表する国際放送局が実施する朝鮮語放送を通じて検証した。その結果、特に米国の国際放送が露朝の軍事協力に焦点を当て、詳細かつ頻繁に報道している状況が明らかになった。

「おふくろの味」の意味の変遷

帝京大学外国語学部
大野 雅子

「おふくろの味」という言葉が、「母が作ってくれたなつかしい料理」という意味で使われたのは、1963年5月5日の読売新聞紙上である。本発表においては、この初出記事から2020年代に至るまでの新聞記事の読解を通して、「おふくろの味」という言葉が、元の意味に加えて、「伝統的な和食」「郷土料理」「健康的な料理」「母から娘へと受け継がれるべき家の味」「馴染み深い味」など様々な意味をまといながら、巨大化していく様子を分析する。1970年代の記事のなかでは、サラリーマンたちが店に「おふくろの味」を求めている。また、母親/妻は料理に愛情を注ぎ込むべきであるという考え方が提唱された。1980年代に「おふくろの味」は、「母が作ってくれたなつかしい料理」という個人的文脈を離れ、「伝統的な和食」「郷土料理」「手作り料理」という新たな意味合いを加えていく。そのなかでも興味深いのが、1981年9月の記事「友竹正則のくいしん坊万才」である。友竹が、「この番組で何よりも楽しみなのは土地土地のおふくろの味」とあると言っているのである。この場合の「おふくろの味」とは、「一般的な郷土料理」のことである。「母から娘へと受け継がれるべき家の味」という意味における「おふくろの味」は1980年代にも散見されるが、1990年代に至ると大きな比重を占めるようになる。1990年代に女性たちは、母親の料理を思い出し、「かなわない」と思うのである。2000年代以降、「おふくろの味」は日本語の語彙の一部として揺るぎない位置を確保する。新しく加えられた意味としては、「馴染み深い味」がある。本発表では、「おふくろの味」という言葉における、このような意味の変遷を、それぞれの時代背景とともに考察する。

厳律シトー修道会の「労働」と「沈黙」に関する現代への適応化について

東京大学社会科学研究所
柴田 香奈子

カトリック教会に属する厳律シトー修道会では、どのような「現代への適応化」が図られ、その結果、どのような共同体が営まれているのかについて検討する。日本やヨーロッパの多くの国々では、長年にわたる社会全体の世俗化を背景に宗教離れが顕著である。また、少子高齢化と人口減少といった問題が加わり、どのような信仰集団も衰退の可能性を避けられない。特に現代人の価値観とマッチしていない伝統宗教の衰退速度は、加速しているといえる。17世紀にルーツを持つカトリック教会の厳律シトー修道会も例外ではない。この修道会は、その生活の中心が観想（祈りと黙想と労働）に向けられた遁世共住修道院に分類される。現在も6世紀に書かれた『ベネディクトの戒律』を厳守し、禁欲的な修道生活を理想として、厳しくその生活を律している。そして、他の信仰集団と同様に、志願者の減少が続き、その規模の縮小が続いている。実際、フランスやドイツでは閉院した修道院も出てきている。では、このような状況に対して、厳律シトー修道会ではどのような取り組みがなされているのだろうか。

本発表では、ドイツとオランダ、日本の合計8つの修道院での参与観察から、各修道院における様々な「現代への適応化」について紹介する。特に厳律シトー修道会が重視する「労働」と「沈黙」に注目し、各修道院の取り組みについて分析を試みたい。同じ戒律に従って生活する同じ修道会に属しているにも関わらず、各修道院では現代への適応化の方法が全く異なることがわかってきた。その多種多様な「労働」の在り方については、『ベネディクトの戒律』への解釈の変遷や、その転換点とも関連して考察し、時系列に整理を行いたい。また、「沈黙」については、修道士への聞き取りから、何を重視し、何を省いてきたのかについて検討する。

現代日本ファンタジー、新中世主義とRPGの相互関係を再考して —データベース・ファンタジーのジャンル論と記号論を中心に—

早稲田大学高等研究所

エスカンド・ジェシ

本発表は、現代日本ファンタジーにおける新中世主義とロールプレイングゲーム（RPG）の関係性を再考し、ジャンル論と記号論を中心に分析するものである。特に、外来文化のモチーフが単に異国情緒として消費されるのではなく、むしろ日本文化に内在化され、他者性が減少しつつあるハイブリッドな想像世界が形成される過程を明らかにすることを目的とする。

主な分析対象となるデータベース・ファンタジー（DF）とは、異文化に起源を持つモチーフを体系的に集め、組み合わせることで作られた作品群である。例えば、ヒロイック・ファンタジー、いわゆる剣と魔法の世界を舞台にしたジャンルとは異なり、舞台設定を縦横無尽に横断し、特定の決まりやモチーフに固定されない。登場するモチーフのジャンルを越えた横断性が特徴であり、メタジャンルとして定義できる。

本研究では、DFにおいて、異文化要素が他者性を抑制されつつ最終的には文化的内面化が進むプロセスに注目する。この内面化によって、日本の文化的コンテキストにおける独自のファンタジーが形成されるのである。ヨーロッパ中世という強い他者性を持つ題材は、1980年代からゲームを通して現れた新たな異文化受容によって変容を遂げ、内面化された結果、これまで論じられてきた新中世主義を超える日本独自の表象を生み出した。

本研究は、新中世主義を再考するために記号論的視点から、こうした文化受容と再解釈のメカニズムを詳細に分析する。ヨーロッパ中世がどのようにして日本のポップカルチャーに内在化される過程で他者性が抑制され、新たなハイブリッドな文化表現が生まれるかを示すものである。日本における新中世主義の独自性を明らかにし、ファンタジージャンルの再評価を行うことが本発表の目的である。